

下関市立しものせき水族館

夏季特別企画展「奄美の海探検記-ミステリーサークルの謎-」

開催期間：平成27年7月4日（土）～平成27年9月23日（木）



【企画展の内容・目的】

- 奄美大島で発見された新種の新種「アマミホシゾラフグ」の不思議な生態にスポットを当て、生息海域周辺のサンゴ礁やマングローブ域の海洋生物や海洋環境を紹介し、海における「生物多様性」や「新発見を通じた海的神秘」について紹介し、海への興味をもつ機会としました。
- 新種フグの独特な生態を再現した「産卵床実物大レプリカ」の展示や「自分で作る産卵床コーナー」、映像と実物を融合した展示手法等により、体験的に海洋生物の生態や海洋環境について学べる機会としました。
- 生息海域周辺には様々な環境があることや、多様な生物が棲んでいることを知っていただくため、サンゴ礁やマングローブ域といった特徴的な環境を再現したコーナーでのエサやり体験や解説を行い、海への理解や親しみをもって頂く機会としました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成27年7月4日（土）～平成27年9月23日（水）
- 開催場所：下関市立しものせき水族館 1階イベントホール
- 入場者数：207,146人



新種フグの生息海域周辺にある特徴的な「マングローブ域」や「サンゴ礁」の海洋環境や生物について、生物の多様性や海の美しさを映像や実物展示を交えて紹介することにより、生物にとっての大切な棲みかとしての役割があることや、実際に様々な生物が暮らしていることを知って頂きました。



マングローブ域の紹介コーナー



マングローブ域の環境・生態を再現



「海のみステリーサークル」とも呼ばれる新種フグの産卵床実物大レプリカの展示や、自分たちで産卵床を作るコーナーなど、新種フグの不思議な生態を体験的に知ることを通して、不思議な習性をもつ海洋生物について紹介しました。

産卵床を実物大で展示し、自分の体の数十倍はある大きさの産卵床を約一週間もかけてオスが独りで造る事や、自分の体だけで細やかな模様を作り出す事、産卵床によって溝の数が違う事や、季節によって巣のできる数も変わるということなど、これまで明らかになってきた不思議な生態や、造る難しさを体験的に知って頂き、まだまだ不思議に満ちた海へと興味を持って頂きました。



不思議な生態を持ったアマミホシゾラフグが新発見されたことを一つの例として、現在でも年間約 18,000 種の動植物等が発見されていることから、海の世界にもまだまだ不思議な生態を持った生物がいて、未だに発見されていない可能性があるという事を紹介し、まだ謎の多い海に対する興味を持って頂きました。

新種のフグに関する最新の情報を提供する事により、水族館は単に珍しい生物が見られる場所というだけではなく、生物の謎の解明や、生物の飼育方法、繁殖方法の研究などの様々な活動を行いながら海の生態系を守る役目も担っていることを紹介し、海の生態系や環境保全の重要性に気付いて頂く機会としました。

【来館者の声】

- フグの産卵のためだと知って驚いた。
- いままで見たことがなく、フグのすごさにびっくりした。
- 奄美の海のきれいということがよくわかった。
- ポイントごとに、映像や文字で解説され、海について分かり易かった。
- 海の生き物を守りたくなった。
- 自然界の海がきれいだと魚が住みやすくなると思った。
- 海の不思議を発見し、解明できるすごさをもっと知りたいと思った。

2. 関連事業の内容

■ マングローブの生き物給餌解説

【開催日時】 特別展開催期間中毎日・随時開催

【開催場所】 下関市立しものせき水族館 特別展会場内

【参加者数】 約800人

【実施内容・目的】

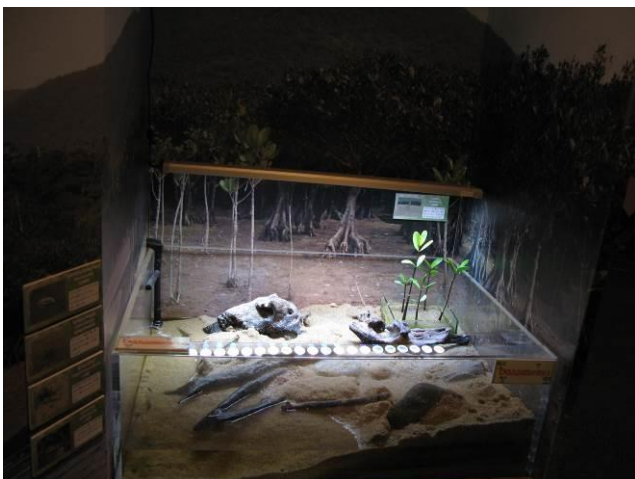
- 新種フグの生息周辺環境である「マングローブ域」の海洋環境と生物を再現した展示において、解説員によるエサやりと解説を行うことによって、自然環境をリアルに観察する機会とし、海洋環境と生物に対する興味をもつ機会とします。
- 解説員による対面解説により、マングローブ域が重要な海洋環境のひとつであることや、生物のゆりかごとなっていることについて紹介すると共に、それらを守っていくことが生き物を守る事にもつながるということ意識するきっかけとしました。



生き物給餌解説の様子



えさやりの様子





アマミホシゾラフグが見つかった海域の周辺環境であるマングローブ域を再現した環境展示を前に、マングローブ域がもつ生物の棲みかとしての役割や見どころを解説するほか、そこに棲む生き物たちがエサを食べる様子を間近で観察できるようにすることで、楽しさと強い印象を演出しました。その後、Q&A形式で参加者から質問を引き出しながら、海の生き物や環境を守っていくという意識をもつ機会としました。

【来館者の声】

- スタッフから生き物の話が聞けて良かった。
- 写真や生体を見るだけではわからない生き物のことがよくわかった。
- マングローブについての理解が深まった。

【事業全体のまとめ】

今回の目玉であるアマミホシゾラフグ産卵床の実寸大模型は、その大きさのみではなく細部まで本物を忠実に再現できたことで、来館者から驚きの声を頂き、効果的に展示することができた。自分で造る産卵床では、多くの方が精密な産卵床を造ることの難しさを、身を持って知る良い機会になった。

また奄美大島へ複数回動画、画像の撮影に行けたことで、遠い下関でも、奄美大島の生物を数多く紹介することができた。パネルや画像のみでは感じられない、インパクトを与えることで、より多くの来館者の生き物への興味関心を喚起させ、給餌解説を交えることで、更にそれを発展させ、海における生物多様性や、海の神秘に興味を広がっていくきっかけづくりになった。

展示を通して、来館者からは、海をきれいにしたいと思ったなど、海的环境についての意見も聞くことができた。今回の企画展を通し、奄美大島の海の魅力を来館者へきちんと伝えることができたと思われる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 黒潮の森 マングローブパーク	マングローブ域の撮影協力
2. マリンステーション奄美	サンゴ類・アマミホシゾラフグの撮影協力
3. 国立科学博物館名誉研究員 松浦 啓一博士	アマミホシゾラフグの解説協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 山口朝日放送	2015年7月
2. 毎日新聞 おでかけ情報	2015年8月28日
3. 山口放送 熱血アニマル	2015年7月10日
4. 日本放送協会 NHK	2015年7月4日

以上